

事業番号	145
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	寿学園運営事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	長寿介護課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	長寿福祉係							
	総合計画 分野別計画	主目的	3 保健福祉		13 高齢者福祉		4 高齢者の健康の保持と増進を図る									
		副目的														
	予算区分	款	3		項	2		目	2		大	2		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市立寿学園設置条例、小牧市立寿学園運営規則														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	65歳以上の市民に対して高齢者の健康増進及び一般教養の向上を促すとともに、高齢者の生きがいの一部として、また、出かけるためのきっかけとしての学園の存在を目指している。														
	内容 (手段)	<p>市政、交通安全、生活関係の講演や生徒による発表会、プロによる演芸など、年間で11回の寿学園定例会の開催及び年1回の寿学園遠足を実施。 定例会における事前準備(契約事務、案内文の作成及び発送、各種講義の依頼、余興・遠足の受付及び関係事務)、当日の運営事務などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会 主に午前は講演、午後は余興(演芸、映画、発表会等) ・遠足 長島温泉等 ・開催場所 定例会: 勤労センター、小牧市民会館 講演回数 11回 <p>◆24年度直接経費の内訳 理事報酬 1,139千円 余興出演委託 1,578千円 バス借上 4,532千円 映画フィルム借上 95千円 その他消耗品費等 1,161千円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 理事報酬 1,146千円 余興出演委託 1,700千円 バス借上 5,160千円 映画フィルム借上 95千円 その他消耗品費等 1,436千円</p>														
	受益者負担	有 遠足時のみ3,000円/一人あたり														

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	8,332	9,146	8,505	9,537	
		正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,066	1,066	1,066	1,066
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	9,398	10,212	9,571	10,603	
対前年比		%		108.6	93.7	110.7		
財源	一般財源	千円	9,398	10,212	9,571	10,603		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	寿学園生徒数	人	目標		3,010	3,010	3,010
実績				2,826	2,769	2,658	
講演回数	回	目標		11	11	11	11
		実績		11	11	11	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			目標				
寿学園代表行事(遠足)出席者数	人	目標		—	—	—	—
		実績		942	898	868	
皆勤賞表彰者数	人	目標		—	—	—	—
		実績		182	198	186	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	寿学園を開催し、年11回の定例会の開催及び年1回の遠足を実施し、生徒の健康増進及び一般教養の向上を促しました。また、生徒数が伸び悩んでおり目標値に達していません。				
		事業実施における課題	<ul style="list-style-type: none"> ・寿学園は、高齢化が進む中で参加者が減少傾向であることから、参加者増加に向けて事業の再構築を含めあり方を見直す必要がある。 ・魅力ある開催内容や運営方法、参加者の募集方法等を検討する必要がある。 				
		事業を縮小・廃止したときの影響	廃止した場合、寿学園が開催できないので、寿学園生徒に対する健康増進及び一般教養の向上が図れません。 縮小した場合、開催時間が短縮され、家に居られない高齢者の行き場がなくなる。 H23年度に実施したアンケートの結果、全日開催を希望する高齢者が、半数以上を占めていた。				
		平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等) 高齢者のための学園であるため、介護予防にもつながるよう座位での実技を取り入れた。 また、PRとして議会中継の合間の画像放映においてPRを行うようにした。 H23外部評価の今後の取組方針においてバスのルートや乗降場所の見直しを検討し、変更を行ったものの、バス1日の借上であるため金額の減額には至らなかった。				
		平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	高齢化が進む中で、居宅に閉じこもりがちな高齢者などに対し、介護予防や生きがいづくりを図るため、今後も必要な事業と判断しているため。				
		26年度以降の改善案	引き続き議会中継合間の画像放送を利用しPRを行っていくとともに、団長を通じてPRする等周知方法についてきめ細かく行う。また、開園内容についても改善を図るよう理事とともに考えていく。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。平成23年度の外部評価を受けた結果、高齢化が進む中で参加者が減少傾向であることから、参加者増加に向けての事業の再構築を含めあり方を見直す必要がある。